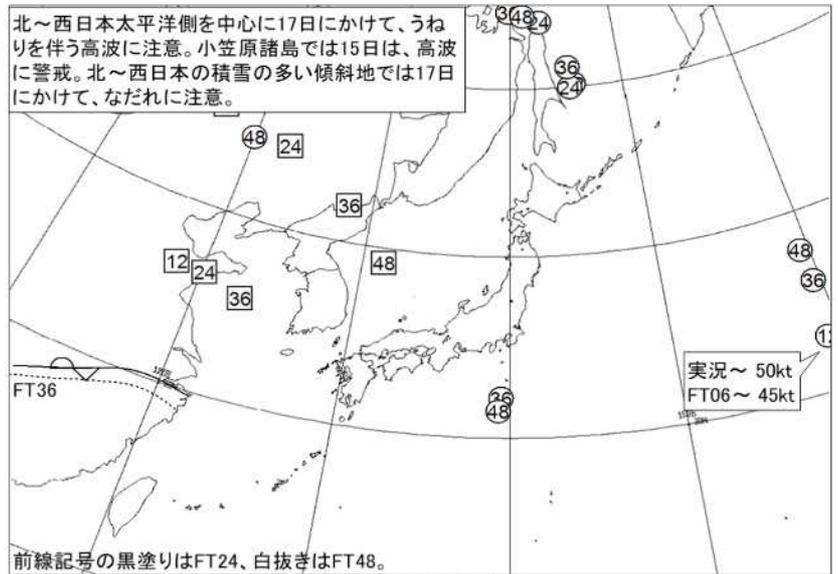


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5520m以下で -15°C 以下の寒気を伴う寒冷渦に対応した低気圧が暴風警報級の勢力で南鳥島近海を東進。この低気圧とアリューシャンの南で12日に発生した風浪を波源とするうねりの影響で、北日本太平洋側の沿岸波浪観測で、4m以上の波高を観測。
- ② 500hPa 5400m以下の切離低気圧に対応した地上の低気圧が、千島近海を北西進。500hPa 5280m付近で -39°C 以下の寒気を伴うトラフが、アムール川上流付近を南下。
- ③ 華北とモンゴルの高気圧の張り出しの影響で、全国的に晴れている。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の日本の東の低気圧は、16日朝にかけて日本のはるか東へ東北東進し、その後、北上する。1項②の千島近海の低気圧は17日にかけてオホーツク海へ進む。伊豆諸島付近では、気圧の谷が次第に明瞭となり、500hPa 5580m付近を断続的に通過する正渦度極大域の影響で、16日夜までに低気圧となり、その後、南下する。500hPa 5700m付近の正渦度極大域に対応した前線が16日夜までに華中付近で発生する。1項③の華北の高気圧は16日夜にかけて黄海付近へ移動し、その後、不明瞭化する。1項②のアムール川上流付近のトラフは、次第に深まりながら寒冷渦を形成し、16日夜にかけて、沿海州付近を通り、日本海北部へ進む。1項③のモンゴルの高気圧は、17日朝にかけて中国東北区を通り、日本海へ移動する。日本の東の低気圧と12日に発生したアリューシャンの南の風浪を波源とするうねりの影響で、しけとなる所や大しけとなる所がある。北～西日本太平洋側を中心に17日にかけて、うねりを伴う高波に注意。小笠原諸島では15日は、高波に警戒。伊豆諸島付近では16日は、近傍の低気圧の影響で、大気の状態が不安定となる可能性に留意。

- ② 17日は、2項①の日本海へ移動する高気圧が日本付近を広く覆う。2項①の華中付近の前線が、次第に東シナ海へのびる。一方、2項①の伊豆諸島付近の低気圧は、次第に不明瞭となる。2項①の日本海北部へ進む寒冷渦は、17日夜にかけて北海道付近を通過し、千島近海へ進む。寒冷渦から広がる上空の寒気の影響で、北海道地方では16日夜から17日にかけて、大気の状態が不安定となる可能性に留意。また、日本付近では17日は高気圧に覆われるため、地上が昇温し、雪解けが進む。北～西日本の積雪の多い傾斜地では17日にかけて、なだれに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①のうねりは、数値予報モデルの予想より波高が高い傾向があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

- ② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。③ 小笠原諸島6、東北・沖縄5、関東・伊豆諸島・九州南部・奄美4、北海道・東海・近畿・四国・九州北部3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。